

口語文 引導の部

桜、花開いて、木々のなかに、その色いろを誇ほこる
枝々えだえだに若葉も萌えいずれば、いのち、ともに輝きらいてまぶし

かくのごとくなりといえど

季節は、ことさらに語かたらずして

風、穏おだやかなれば、日なたに春を見る

新帰元

信士

人は、それぞれの立場で、それぞれのしあわせを願ねがいます

多くの人は、それを形あらわで表すこと、数字で示すことで求めます

学校でも、仕事でもそうでした

だけれども、眼で見えることを大事にしてきました

地位も名誉も財産も、もちろん大切なことです

でも、寿命を終えるときには、

その幸せの基準をそのままに持ち続けることはできません

お釈迦様はおしえられました

「見えていないものを見よ」と

誇らしく咲く花は、いのちの輝きでありながら、散り落ちる最後の瞬間です

枯れ木のように見えた枝は、まだ見えていない若葉もの萌え出す寸前です

信士、ご自分のいのちをよく観みて下さい

○十〇年のうちに、できたこと、出来なかった事だけではなく、

これから、あなたが為すべきことに気づいてください

体という形を持たなくとも、あなたの祈りは生きつづけるはずですよ

丁度、美しい花は、目に見えていない根によって支ささえられているように、

花も根も、いのちとしてつながっているのです

あなたが支え、守るべき人たちがここにいます

お釈迦様の弟子となったあなたが仏となり、

よき根とされることをお祈りします

とき刻いたれば命いのち咲く、百花ひゃっかとりどりの色いろをもって

とき過ぎれば花の散る、また次の花を開かんがために

信士靈位、まさに願わくは受けたまえ

「わが身をも、心をも、放ちわすれて、仏の家になげ入れて、仏のかたより行われて、これに従いもてゆくとき、力をもいれず、心をも、つひやさずして、生死をはなれ仏となる」（眼蔵、生死）

本山永平寺の道元禅師、正法眼蔵に示し給う

「願生此娑婆国土し来たれり」と

自他ともに、願いの中に、幾たびか死すといえど

願いあればこそ、幾たびか生まれ来たる

今生のその身も、かくのごとし

〈願生…〉「深信信解
是法華、深信信解寿
命長遠のために、願
生此娑婆国土しきた
れり」(眼蔵 見仏)

新帰元

信女靈位

年のご生涯のうちに、様々な場面で見えられたように、
命は不思議であり、人の計らいの及ぶところではありません
それでも人は、どんなときにも、望みや願いを持ちます
ただ、未来をより良いものにするために祈ります

信女

道元禅師様がおしえられたように

あなたの「いま」は、あなたが願った結果なのです

願わなければ、今のあなたにはなれなかったでしょう
祈りに気付くことは、あなた自身を大切にすることです
願いを持つことは、次を生み出すことにつながります
死は、おしまいではありません
からだの寿命は、これで終えられましたが、
あなたの願いは、これからも生き続けます
家族や、大事な人との縁は、あなたの願う心において、つながっています
みんなのために祈ってください、願ってください
幸せにする人が仏様です、祈るもの、願うものこそ、仏様です

信女

寿命、久しからず、百年に及ぶは、まこと希なり
久しく寿を保つは釈迦世尊、百千の年を生き来たる
人より願いを受けて仏となり、人に願いを向けて、仏を行ず

季節は明らかに移り、野山、沸き立つがごとくに緑輝く
春夏秋冬、違わずめぐり来て、各々の時を示したり

新帰元 信士

満 歳 年間の生涯をすごされました

これまでには、さまざまの経験を積まれたことでしょう
先ごろは、あなたのふるさとが、いたましい震災に襲われました
御縁の方々の中にも被災された方があるとお聞きしました
人の運命は、人によって、はかり知ることはできません
ただひとは、その時々^{とき}にできることをおこなうのみです
力のある人は力を、知恵のある人は知恵で、務めるのです
わたしは、何も持っていない、という人がいるかもしれません
その人は、優しさを持ってばよいのです
やさしさは、悲しみをなかつたことにはできません

〈震災に襲われ…〉
平成二十三年七月の
葬儀。

〈力ある人は力を…〉
「上智下愚を論ぜず、
利人鈍者をえらぶこ
となかれ」

(普勸坐禅儀)

運命を変えるわけでもありません

ただ、真実の優しさに出会った時、人は救われるのです

信士

あなたは今日、その体、形を失います

しかし、何もかもを失うわけではありません

あなたには、祈る心、願う力があります

お師匠様であるお釈迦様が、お導きくださいます

観音様もお守りいただきます

あなたの祈り、あなたの願いにより

多くの悲しみを救い、あなたの家族を

また縁につながる人を幸せに導いてください

信士

ご修行の助けとなるよう、引導をお授けします

大悲の願力、古今なし

春夏秋冬、面前にあり